

義太夫

義太夫協会 女報
第10号

昭和51年7月20日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋演舞場別館TEL(541)5471

わかるかな

会長 吉川 英史

人の運命は不思議なものです。わたしは永年日本音楽の研究一筋に生きて来ました。東大の講師を振り出しに、三十年間も日本音楽史の講義を続けて参りました。研究や講義の内容が日本のことです。しかも、日本文学や日本美術と違って、外国人の勝れた研究は、日本音楽に限る限り、最近までありませんでした。わたしは外国語の本を読む必要を感じませんでした。外人と話す機会も少なかったのです。

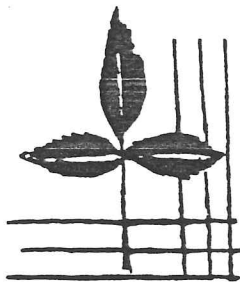
来て、九月から十二月まで、毎週二回ずつ日本音楽史の講義と、演習を受持つてくれーということです。この大学は、フォード大統領の出身校ですが、それよりも、わたしに取っては、日本音楽の研究で有名なマラム教授がおられることと、立派な日本研究センターがあることが魅力的です。しかも、最近同校の卒業生のカライスライドを見せてもらって、大学の建物の立派なこと、樹木や庭園の美しいこと、アンナーパー市が、文字通り学園都市であり、その自然の環境の良さ、街の静けさを知って、すっかり気に入りました。

しかし、気になるのは、わたしの語学の力です。今、毎週英語の特訓を受けています。老人の学習は、なかなか物になりません。しかも、わたしは心臓(?)も強い方ではありません。今、沢山の人たちが「しっかりやっ来てくれ」と激励されています。出征兵士のように重荷を感じます。

それよりも、わたしが演習でやるのは、語り物！特に義太夫節です。「寺子屋」「野崎村」。青い目の大学生たちがどんなに受取り、どんな説明をし、どんな質問をするでしょうか。レコードや書物は日本からかなり行っているそうです、邦楽のレコードは五百枚もあるそうです。

これから文案の人形のスライドの準備に取りかかりますが、あの手、この手と、手はつくしても、日本人の物の考え方！義理人情などいを、どう説明するか。わたしの語学力での説明……!!

わかるかな……?
ワカランダローナア……!!



五十一年度総会にあたり

副会長 豊 沢 仙 広

吉川会長がアメリカのミンガン大学に招かれて、五ヶ月の間、日本音楽古曲の講師として出張され、特に義太夫の良さを教えて来られるとの事。外国の青少年が少しでも義太夫を理解して下さるようになったら、どんなに素晴らしいことかと嬉しくなりました。

世の中の騒々しさをよそに、芸術のことばかり心を寄せている私は、これではいかと折にふれて反省させられます。一つの仕事を完遂させるのはなかなかのことと、この頃やっと気づいております。義太夫協会の仕事をさせて頂くようになって五年間、いまだにヨチヨチ歩きで恥かしき次第です。

立派な会長を載いて、役員一同懸命に義太夫発展の為の努力を続けているのですから、必ず心身共に立派な義太夫協会になれると確信はしているのですが、なかなか暇が掛るのですね……。此度びの総会に色々意見の発表もあり、聞かれ

た正会員の皆様は、肝に銘じて、今度は義太夫協会に益々本腰を入れて力になって下さる事と存じます。大勢の力が結集して初めて立派な協会になるのです。

正会員の皆様はいうに及ばず、特別会員・賛助会員・準賛助会員の皆様、義太夫発展に力を入れていらっしゃる皆様の義太夫協会を、盛りたてて、一人前に立派な協会に仕上げて下さいますよう、お願い申し上げます。

本牧亭のお客様もすっかり若返ってきたと、御常連は喜んで下さいます。教室の新入生の上達ぶりを皆様に聴いて頂きたく、後継者育成も兼ねている毎月二十日・二十一日の本牧亭公演に、おはこび下さいまして、若い美声の新入生に華を添えて下さいますよう、伏してお願ひ申し上げます。

暑さに向います折、どうぞ御自愛下さいまして、義太夫節の御上達をお祈り申します。

湊太夫師を偲ぶ会

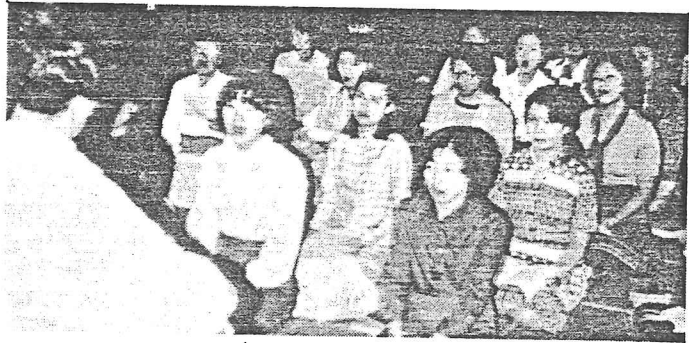
— 御報告 —

これは、師の七回忌にあたり、教室第一期生の佐々木明郎監事、竹本彌乃太夫理事他の発案により実現したものです。会場は、同窓会さながらといった雰囲気、特に初期卒業生は、客席、出演者の若返ったことに大きな驚きを示していた。これを機に名簿を整備する動きもでて、湊太夫師のまかれた種子が大きく育っていることを、改めて感じさせる会であった。(6頁、協会の動き参照)



(切手向の天網島橋づくしの段
(太夫4人 三味線11人の演奏)

義太夫教室始まる



楽団実技実習 「新 口 村」

文化庁助成による義太夫教室の講習会が始まった。六月一日(火)六時、俳優協会稽古場にて、吉川英史会長・豊沢仙広副会長その他講師出席の許に行われ、以来、火曜と木曜の六時〜八時(前半は講義、後半は実技)に熱心な講習会が続けられている。

講習生の内訳は、男子十八名、女子二十七名、職業別は、サラリーマン二十五名、学生十名、その他十名。また文案フアンと歌舞伎

フアンはほぼ同数で、両方のフアンもかなり多い。以上は例年の内訳と大差はないようである。

講師は、吉川英史会長(語り物の歴史)・鶴沢重造監事(義太夫基礎)・佐々木明郎監事(作品研究他)・竹本弥乃太夫理事(音調基本他)、実技教師は、竹本越道理事(時代物「太十」)・竹本綾之助理事(世話物「新口村」)・野沢吉平理事(景事・道行)が勤めている。会期は二ヶ月で、七月二十七日(火)に閉講するが、例年の如く、語りと三味線の集団実技希望者が多い場合は、来年三月まで実技が行われる予定である。

渡米あい次ぐ

当会報第一面の御挨拶の如く、吉川英史会長は、八月から半年間、ミシガン大学客員教授として、日本の語り物(義太夫を中心として)を講じられる。夫人御同伴とはいえ長期間なので、常にお健やかならんことをお祈りする次第です。次に、野沢吉平・竹本綾太夫の両名が、アメリカ政府主催の建国二百周年記念行事「古い国の民俗芸能フェスティバル」に、日本代表の八王子車人形の演奏者として参加する。八月七日より約一ヶ月間、ワシントン市他全米各市を巡演するので、会長とバツタリという場面も想定される。

義太夫師を偲ぶ会・收支決算

収入の部	
出演費	四八、〇〇〇円
懇親会会費	六一、〇〇〇円
寄附	五〇、〇〇〇円
(寄附内訳・敬称略)	新 小 松一壱万円
菅野 光雄一五千元	佐々木明郎一五千元
竹本綾太夫一五千元	竹本彌乃太夫五千元
中島 古平一五千元	日置まさ子一五千元
出月 清人・鈴木 登一五千元	
島 春栄一参千元	葛原ゆう子一壱千元
無名 比一壱千元	(計五〇、〇〇〇円)
収入合計	一五九、〇〇〇円
支出の部	
本牧亭席料	三八、〇〇〇円
賛助出演者他交通費	一一、〇〇〇円
床世話料	一一、〇〇〇円
荷上げ料	四、八〇〇円
ろうそく代他	五〇〇円
プログラム印刷費	八、七六〇円
総稽古会場費	四、五〇〇円
祝儀	九、〇〇〇円
食事代	六四、三〇〇円
雑費(荷物運搬・通信他)	二、一四〇円
差引合計	一五四、〇〇〇円
差引残高	五、〇〇〇円
他に、当日飲物(酒・ビール・ジュース等)	
一 湊太夫師御遺族 生花一義太夫協会 生花	
一 新小松 清酒一本一佐々木明郎 果物一籠	
一 鈴木和子 菓子一折一結城美津子	

1956. 7. 20

義太夫協会々報 第10号

社団法人 義太夫協会 昭和50年度収支決算報告書

損益計算書

(50・4・1~51・3・31)

収入の部	科目	支出の部	差引損益
1,700,000	助成金		
2,015,720	寄附金		
881,000	会費		
131,000	芸団協		
298,365	雑収入		
(5,026,085)	(小計)		
	事務所費	32,950	
	家賃	360,000	
	事務用品費	35,545	
	事務費	16,750	
	給料・諸手当	909,900	
	交通費	121,250	
	通信費	178,753	
	交際・慶弔費	88,000	
	会議費	73,820	
	消耗費	2,000	
	水道光熱費	21,940	
	倉庫敷料	60,000	
	印刷費	288,440	
	諸税公課	3,000	
	手数料	4,650	
	会費	30,000	
	宣伝費	5,000	
	講読料	17,200	
	資料蒐集	39,910	
	研究会室	38,080	
	会報	129,670	
	諸雑費	24,000	
	雑損	45,000	
	(小計)	(2,525,858)	
789,000	義太夫教室	2,869,320	△2,080,320
873,950	女流義太夫	2,077,520	△1,203,570
145,000	学校巡演	890,460	△745,460
269,665	慈善公演会	269,665	0
260,500	賛助会員会	283,840	△23,340
191,000	芸術祭会	443,580	△252,580
122,000	新年祭会	122,750	△750
563,950	新都邦楽祭	262,030	301,920
3,000	祖先祭	5,684	△5,384
(3,218,065)	(小計)	(7,276,005)	△4,057,940
8,244,150	合計	9,801,863	△1,557,713

1976. 7. 20

義太夫協会々報 第10号

(借方)

貸借対照表

51・3・31 現在

(貸方)

科目	金額	科目	金額
現金手許	92,390	基本金	3,000,000
当座預金	64,178	甲財産	1,100,000
定期預金	3,000,000	受入金	121,500
普通預金	400	借入金	1,200,000
郵便振貯	26,445	預り金	1,263,080
郵便収入	7,435	未払金	2,758,890
仮払入金	545,700	繰損金	△2,978,306
立替	20,000	小計	6,465,164
敷替	9,900	差引損益	△1,557,713
備品	200,000		
電話加入権	867,565		
	73,438		
合計	4,907,451	合計	4,907,451

寄附

昭和50年度

(特別会員・賛助会員の部)

都築 八郎 (入船堂) 様	一八五、〇〇〇円
加藤 聚栄様	五〇、〇〇〇円
河野 国声様	五〇、〇〇〇円
新小 松様	五〇、〇〇〇円
鈴木 一光様	五〇、〇〇〇円
妣田 圭子様	四五、〇〇〇円
松岡 語松様	四五、〇〇〇円
小田切 一鳳様	四五、〇〇〇円
菊地 秋月様	三〇、〇〇〇円
高野 俊雄様	三〇、〇〇〇円
田中 一郎様	三〇、〇〇〇円
松尾 武市様	三〇、〇〇〇円
平井 おひろ様	二〇、〇〇〇円
増田 いね子様	一五、〇〇〇円
宮脇 雪むら様	一三、〇〇〇円
内野 正幸様	一〇、〇〇〇円
品川 欣司様	一〇、〇〇〇円
中村 初波奈様	一〇、〇〇〇円
島 春栄様	五、〇〇〇円

尚、昭和49年度には、鈴木一光様に毎月二〇、〇〇〇円、計二四〇、〇〇〇円を、入船堂様に一六〇、〇〇〇円を女流義太夫公演会補助として御寄附頂きましたことを御報告いたします。

特別会費二口以上の方

(50年4月1日～51年3月31日扱い分)

鈴木 一光様	(50年度10口) 五〇、〇〇〇円
関谷 欣生様	(51年度10口) 五〇、〇〇〇円
内野 正幸様	(50年度6口) 三〇、〇〇〇円
増田 いね子様	(50年度5口) 二五、〇〇〇円
小田切 一鳳様	(50年度2口) 一〇、〇〇〇円
景山 正隆様	(51年度2口) 一〇、〇〇〇円
菅野 光雄様	(50年度2口) 一〇、〇〇〇円
中原 栄蔵様	(50年度2口) 一〇、〇〇〇円
横山 敏雄様	(50年度2口) 一〇、〇〇〇円

寄贈

竹本 土佐広様	「桜時雨」月郊作コピー一部
鶴沢 英治様	「浄曲百段 語りものの譚」
	「義太夫論」杉山其日庵稿
	「浄瑠璃物語」佐谷著
	「文楽の研究」三宅周太郎著
	以上各一冊
	文楽座番付
	(明治37年11月興業)
中村 盛雄 (よしや) 様	特殊コマ 十ヶ
	胴かけ 一ヶ
	コマ 七ヶ
	糸 多数
豊沢 登緑様	SP用蓄音器 一台
品川 欣司様	木バチ 一丁
竹本 綾之助様	

協会の動き

昭和51年3月より
昭和51年7月まで

〔昭和五十年度〕

3月18日 芸団協第二回功労者賞表彰式 義太夫協会では、豊沢猿三郎相談役が受賞。仙広副会長が列席した。

於銀座東急ホテル

3月20日 女流義太夫公演会席上にて、芸団協助成による新人奨励賞の表彰式を行う。50年度は、竹本越孝、豊竹公二郎が受賞。会長より「功労者賞と新人賞との二つがあることを芸団協に感謝すると同時に、協会に両賞とも対象者がいて幸いに思う。新人が出るか否かがその芸の別れみち、本人が芸を磨くと同様、愛好者の方も、子供をほめたりおだてたりする必要があるように、新人を育てて頂きたい」との挨拶。(要旨) 於本牧亭

3月21日 女流義太夫公演会 於本牧亭

3月29日 東横名韻会学生邦楽大会に、義太夫教室生徒とOBが出演、道中双六を演奏した。指導・竹本彌乃太夫 於東横ホール

〔昭和五十一年度〕

4月20・21日 女流義太夫公演会は、交通ス

トのため両日とも休演

4月28日 文化庁より五十年助成金 百五十万円交付

4月29日 豊沢猿公師、勲五等瑞宝章を受章。

5月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭 賛助会員公演会「邦楽お楽しみ会」

5月25日 義太夫をはじめ、俗曲・民謡等賑やかに演奏。特に、義太夫教室と竹本越春事藤本秀駒社中による「野崎」の合奏は画期的であった。

又、越春師より多額の寄附があったため、運営上もうまくいった。

於三越劇場

5月27日 定例理事会、50年度決算報告、51年度事業計画及び予算案他、総会準備 於新小松

6月1日 文化庁助成による義太夫教室第29期開講。開講式の後、直ちに講義、実技実習に入る。45名入講。於俳優協会稽古場

6月8日

昭和51年度総会、会長・副会長挨拶、50年度事業報告、決算報告(4・5頁参照)、51年度事業計画、予算案を審議・可決した。31名出席。於新橋演舞場三階大食堂

6月20日

女流義太夫公演会 於本牧亭

6月20日

NHK教育テレビ「サラリーマンライフ」で義太夫教室風景が放映(26日に再放送)された。

6月20日

読売新聞朝刊(都内版)に、義太夫教室に関する記事が掲載された。

6月21日

義太夫教室育ての親、協会元理事長、故八代目「豊竹湊太夫師を偲ぶ会」(七回忌追善)が、義太夫教室主催、協会後援で行われた。

6月21日

教室出身でプロとして活躍中の正会員をはじめ、主に二十四期以降の卒業生中心に多数出演、日頃の精進の成果を披露した。湊太夫師、教室関係者で会場は熱気にあふれた。終演後の懇親会には、湊太夫師夫人、御子息も参加され、師を偲ぶと同時に、教室の歴史を語るにふさわしい集いとなった。於本牧亭(2・3頁参照)

7月15日

週刊サンケイ7月29日号に義太夫教室稽古風景が写真で紹介された。

7月20日

会報第10号発行

1976.7.20.

(投稿)

浄瑠璃物語と義太夫

桑原 須賀夫

『三州横山話』という本に、長篠の古戦場近くの御料林の中に浄瑠璃姫のお墓があり、明治三十年頃、姫が早川熊十という人の夢枕に三夜まで立って、私を祭れば一切の願いを叶えると告げてから、一時参詣人が雲集したという話を、柳田国男氏が紹介しております(『女性と民間伝承』) それによりますと、姫のお墓は東三河の諸処にあつて、久しく土地の人人に語り継がれ、気高く、美しい女の話が出る度にしばしば思い出され、それが或る時忽然と心ある者の夢枕に頭れたもので、あの小野小町や和泉式部などと同類のエピソードだそうであります。

さて、「教室」の講義でも解説せられていゝる、浄瑠璃姫と牛若丸との恋物語、所謂『十二段草子』にはいろいろと興味深い問題が含まれているように思われます。それは、ひとり浄瑠璃に限らず、広く国文学や民族学などの領域にまで及んでおり、とても私如き素人の手に負える代物ではありませんが、義太夫との関連に於て、愚見を申述べてみたいと存じます。『十二段草子』はよく知られた説話であります。一応順序として、主に郡司正勝氏の文章を参考にしてその概略を記すと、ほゞ次の様なこととなります。

「三河国(愛知県)矢矧の長者の娘浄瑠璃姫は、薬師十二神の申し子として生まれ、天

下に並び美姫である上、大そう芸能にも秀でていた。一方、平氏の目をのがれて奥州へ下る牛若丸は、金売吉次の案内で長者の館に宿った折、姫と契を結ぶ。翌日姫と別れた牛若丸は途中吹上の地で病のために命を落す。姫は夢中のお告げでそれと知り、駆けつけて祈願の末、牛若を本復させる。牛若は身分を明かし、姫との再会を約して平泉へ下る。以上の物語を十二段に構成したもので、既に享祿四年(一五三一)頃にはかなり一般にも流布していたと思われ、後の浄瑠璃の祖となつたものであります。なお、私見によれば、「十二」という数は仏教の十二因縁から出たものと思われまゝ。十二因縁とは、衆生が前世、現世、後世の三世にわたつて六道に輪廻する因と果とを十二に分けた名目であり、無明、行、識、名色、六処、触、受、取、有、生、老死。これらが順次に因となり果となつて流転を繰り返すことを言うものであります。」

柳田氏はこの物語について、「もとはたぶん鳳来寺の御本尊の、あらたかな靈験を説くのが目的で、薬師如来の申し子なるが故に浄瑠璃御前と言ひ、珠にも花にも譬えようのない美しい姫で、人間の福徳榮華何一つとして欠けた所のないことを、事も細かに叙べていたのが、空想は更に空想を生んで、末には牛若御曹子の海道下りと結び合うことになつた。」(『浄瑠璃の根源』)と述べております。物語の種明しとしてなかなか面白いと思ひますが、私が特に心ひかれるのは、「貴種流離譚」と「靈験譚」との二つの要素によつてであり、それらが恰かも一枚の紙の裏表のように分かち難く、また非常にプリミティブな形

で現れている点であります。これらのエレメントが「継子いじめ」と並んで日本の文学や芸術の、謂わば源流であるという事実を思えば、一見何の変哲もない浄瑠璃姫と牛若丸との恋物語も、その背景は広く且つ深いことが容易に揣摩せられるのであります。ところで「貴種流離譚」とは、「貴種」つまり尊貴な身分の美しい方が、その貴さ、美しさ故に人々から疎まれ、憎まれ、中傷や誹謗の結果、都を追われて或は偏境の地に侘住いを託ち、或は流離の境源に落ちて艱難辛苦するというもので、牛若丸を始め、義太夫や歌舞伎でもよく知られた「菅原伝説」などはその代表的な例であるほか、『伊勢物語』の「東下り」や「須磨にはいと心づくしの秋風」の「東下り」で名高い『源氏物語』中の白眉「須磨」などがすぐ思い浮かびます。一方、「靈験譚」の方は、要するに、神仏による救済や奇瑞の譚で、古くからの民間伝承、『古事記』、『今昔物語集』などなど、類例は枚挙に暇のないほどであります。そうして、『十二段草子』のように、神の申し子であるとか巫子による救済や奇瑞という形を採るのが普通であつてこれは後の浄瑠璃、就中、義太夫に大きな影響を与えていることは疑いませぬ。大近松の「世話物」を例にして申しますと、女主人公たちには一つの共通した「性格」が見られ、男主人公たちの愚昧振り比べいづれも勝れて気高く立派に描かれていることは周知の通りであります。お初、小春、おさんなど近松の「悲劇」を荷っているのはしつかり者の女性たちで、無節操な、思慮分別に欠けた男たちをグイグイと引っ張つてゆき、彼らの

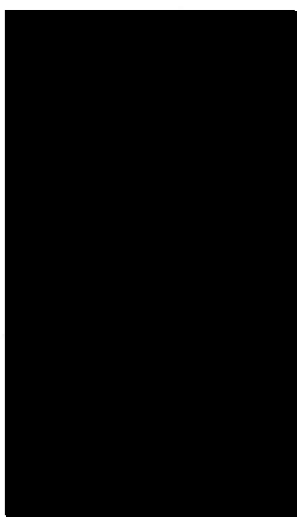
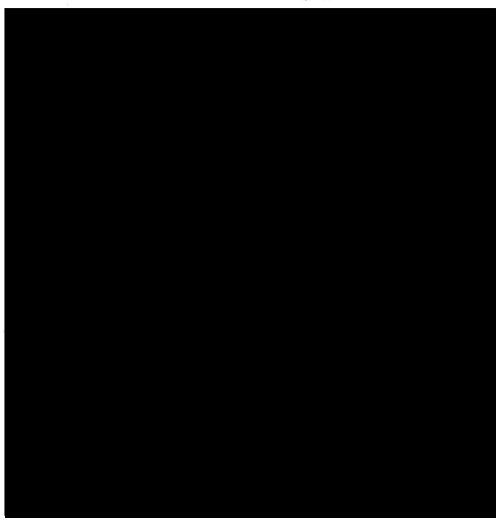
(次頁下段へ続く)

新入会員御紹介

五十一年度名簿発行以降
（五十一年七月二〇日現在）

特別会員

賛助会員



会 員 便 り

△おめてた△

豊沢 猿三郎師

豊沢 猿公師

芸団協功労者賞受賞

勲五等瑞宝章受賞

△訃報△

豊沢 猿玉師（正会員） 51年5月20日

（前頁より）「悲劇」を完結せしめ、魂の救済を可能ならしめるのは、ひとえに女性たちの力に負っているのであります。こうした事実は一体何を意味するものでありましょうか。勿論、近松個人の理想的女性像の反映ということがあります。しかしながら、そうした個人の好尚を越えて、前述した、古代以来の伝統的な「巫子」（この言葉は多分に象徴的な意味で使っております）による衆生化度のメタモルフォーゼを、私はここに見るのであります。女性たちの多くが遊女であることも重要で、神埼の港町の遊女が普賢菩薩の化身であるという『十訓抄』の性空上人の故事や、能楽の『江口』などが思い合わされます。更に、『壺坂観音霊験記』も数ある「霊験譚」の一つですが、お里沢市が観音に救われるのも、お里の貞節、捨身の一念からということになっておりますし、『伽羅先代萩』の政岡も実子千松を殺して主君（家）を救うのであります。ここにも古い「救済譚」の名残りが色濃く跡を止めていると言いうことができるのではないのでしょうか。

編集後記

暑中お見舞申し上げます。今号は報告事項が多く、お読みになりにくいかもしれませんが、悪しからず御了承下さい。

協会の一年度の動きをおつかみ頂いて、協会に対する御意見、御支持をお寄せ下さいますようお願いする次第です。